

令和5年度第2回我孫子市在宅医療介護連携推進協議会 議事録

開催日時 令和6年1月18日(木)午後6時30分から午後7時30分
開催場所 ZOOM 会議
出席者 委員：10名
佐藤昭宏、仲村信慶、小野武弘、松山光貴、寺山加恵
木村幸恵、岡安一将、大野令子、星良子、鉄谷舞子
我孫子医師会：1名
松宮泉
国保年金課：1名
澤井主任
事務局：6名
高齢者支援課
長島課長、松本係長、石川係長、
宮路総括主査、宇佐見主査、岡野主任
傍聴者：なし
司会：介護サービス事業所連絡協議会 寺山加恵

【議題】

(1) 認知症ケアパスについて

今年度、認知症ケアパスを大幅にリニューアルした。カラー刷りでオレンジを基調にしたもの。アンケートをとったり、他市のものを参考にしながら作成した。相談窓口など、手に取った方がわかりやすいように工夫した。また、認知症の状態に合わせた支援の流れを見開きでわかりやすく記載した。

(2) あびこねの取り組みについて

従来の「RUN伴+」から「あびこね」に名称を変更して活動した。「あびこね」とは「あびこ」と「コネクション(つながり)」をあわせたもの。認知症の方々はじめ多くの方とつながりながら、みんなの笑顔が増えるようにこれからも楽しい元気な活動をしていきたい。8月、9月はオレンジのものを身に着けて認知症のことを自分事としてとらえるオレンジデーを実施。施設の入所者やデイサービスを利用している方がオレンジミサンガを認知症サポーター養成講座を受講した方へ向けて制作。認知症だからとあきらめている夢を応援する夢プロジェクトも開催。11月にはRUN伴+2023を実施、当事者の方、支援する方、ケアマネージャーや地域の方々が参加され、直接みなさんと会えたこと、たくさん笑顔がみれたことがよかった。今後こういったイベントをどうつなげていくか来年度に向けて動いているところ、引き続きご協力をお願いしたい。

(3) 配食サービスに関するアンケート調査報告について

令和3年度に実施した配食サービス利用者アンケート調査について報告する。

本調査は、配食サービスの利用状況、満足感、対象者の健康状態や食生活習慣等を調査し、日常生活における身体活動状況と食事摂取状況、口腔機能や食に対する意識、食生活習慣との関連性を検討することと、高齢者の生活環境やICT利用状況を明らかにし、食生活への支援方法を検討することを目的に行われた。調査対象は、我孫子市が委託した配食サービス提供業者が提供している配食サービスを利用している111名で、アンケートの最終回収は93名、回収率は83.8%。

本調査において、我孫子市が長年実施してきた配食サービスが単に栄養価の整った食事の提供をすることにとどまらず、安心感を与えたり、規則正しい生活の助けとなったりと様々な効果があることが示された。また、フレイルの可能性の高い配食サービスの利用者が、自ら身体活動を行うなど健康意識が高い傾向があることもわかり、今後はいかに日常生活の中でその身体活動を継続できるか、社会参加や外出の機会を設けられるかの工夫が必要と考えられる。そして、今後のフレイル対策として、配食サービスの提供を受けている対象者が入院したり介護施設に入居した場合には、病院や介護施設の管理栄養士がケアマネージャーや地域包括支援センターと連携し、継続した支援が行える体制作りが必要。

質疑：食形態や歯の喪失状況、歯科医師の関わりについて質問。

回答：食形態は常食だけではなく柔らかいものも選べる。口腔状態については今回調査項目に含まれていないが、栄養摂取のためには歯科の情報は重要であり、今後多職種との連携を検討する。

(バイキング会食会について)

令和5年9月22日に開催されたバイキング会食会について報告する。

バイキング会食会は、介護サービス事業所連絡会の事業で、高齢者施設や病院の管理栄養士が市民に食事を提供し、食に対する意識を高めることを目的としている。市内事業所の食に関するノウハウを地域に届けるために管理栄養士が中心となって取り組んでいる。感染症流行のため4年ぶりの開催であり、以前より小規模にはなったが、アンケート結果では、全員が「満足した」と回答、自由記載では「おいしい料理とともに介護に従事する方とお話もできて幸せな一日になった」と書かれた方もいて満足度の高いものとなった。

(4) 終活講座の報告について

令和5年8月10日に実施した終活セミナーについて報告する。

市内5か所の近隣センターでパブリックビューイングで開催した。アンケート結果では、音の聞こえなどオンライン開催に関することに対する不満があったが、内容については満足度が高かった。関心の高いテーマは、持ち物の整理、介護施設について、認知症についてなどであった。今回の講座は、これで終わりにするものではなく、市民向け講演会のテーマでもある人生会議につながるものであり、最後に「もしバナゲーム」を実施している映像を流した。講座後には「夫婦でやってみたいからもしバナゲームを貸してほしい」という声もあがった。

(もしバナゲームの体験会について)

地域医療コーディネーターの松宮氏に協力してもらいもしバナ体験会を実施した。カードを選択するたびに自分の思いや考えを確認できた、人それぞれいろいろな価値観・考え方があってそれを話せるのがよかった、避けてしまいがちな話をゲームとして気軽に取り組めて元気なうちから考えておくことが大切だと思ったなどの感想があった。ゲームを通じて様々な気づきを得ることができたのではないかと思う。

(5) 専門部会から

- ・多職種交流会について報告する。

日時：令和5年11月30日(木)

場所：ZOOM開催

テーマ：意思決定について

参加職種：医師、薬剤師、ケアマネジャー、保健師・看護師・栄養士、介護職、社会福祉士、医療ソーシャルワーカーなど

参加者数：79名

実施後のアンケート結果では、進め方や内容について「満足」「どちらかといえば満足」と回答した方が68%と過半数を占めた。ほかの職種の人と顔を合わせる場として役立ったかについて「満足」「どちらかといえば満足」と回答した方は89%、来年以降も多職種が一堂に会する場が必要だと思うかでは「必要」「どちらかといえば必要」と答えた方が89%と同じく大多数を占めた。

自由記載では、いろいろな職種の方と話ができ、有意義な時間だった、我孫子市にはこんな素晴らしい多職種の方がいるんだと知ることができた、職種が違うからか意思決定についての考え方が違うのでおもしろかった、などの意見があがった。

- ・令和6年3月2日開催予定の市民向け講演会について報告する。

日時：令和6年3月2日(土)10時から12時

場所：けやきプラザ9階ホール

会場とオンラインのハイブリット方式、第1部の講演部分のみオンライン視聴が可能

定員：会場定員は100名、オンライン定員は500名でいずれも先着順

参加費：無料

申し込み方法：QR読み取りと電話。ただし、オンライン視聴はQR申し込みのみ

申し込み期間：広報掲載の1/16(月)から受付開始、締め切りは2/16(金)

講演会は2部構成、第1部では岩手保健医療大学教授の三浦康彦先生の講演で、講演内容は人生会議について。第2部は「もしバナゲーム」というカードゲームを通じて、「もしものとき」を経験することで、人生の振り返り、意思決定の大切さなどを感じていただくもの。

- ・地域医療コーディネーターについて報告する。

地域医療コーディネーターは、在宅医療・介護連携推進事業に位置づけられている。包括との協働であったり、総合支援というのが主な役割となる。9月から医師会所属で専従となり、チラシを作成し周知に努めている。在宅医療・介護関係者への相談支援としては、主治医のいない人の主治医意見書作成（アウトリーチ事業）の調整・訪問や、各包括支援センターや病院 MSW・ケアマネージャーからの医療的な相談や施設の相談等に関する窓口となる。地域住民への普及啓発としては、包括と協力して終活講座やもしバナ講座を実施、市民講演会もこの一環として実施予定。もしバナゲームだけでなくその先を見据えて考えていく必要がある。医療・介護関係者の情報共有の支援は、今年度未実施だが、MSW とケアマネージャーの交流会で入退院に関する話し合いを行い、入退院連携シートの作成なども今後検討する。認知症高齢者の医療機関への受診や、非がん患者の看取り期の支援なども行っていく必要があるが問題が多岐にわたるので今後相談しながら進めていきたい。

- ・在宅医療機器ハンズオンセミナーについて報告する。

日時：令和5年11月8日（水）、令和5年12月21日（木）18時～19時

場所：湖北地区公民館（11月8日）、我孫子市生涯学習センター（12月21日）

医師会会員や介護関係者が在宅医療機器を実際にみて使用方法などを知っておくことで、利用者が使用するイメージを持ち、日々の診療の一助としたり、心配なくサービスを提供できるようにすることを目的とする。当日はあかり薬局高柳氏に協力いただき、在宅で行う中心静脈栄養についての講義を実施した。訪問看護師が「とてもためになった」と話していた。湖北地区公民館では32名、我孫子市生涯学習センターでは39名が参加した。アンケートでは「役に立った」との回答が多かった。顔の見える関係づくり、横のつながりづくりを今後も行っていきたい。

- ・もしバナゲームについて報告する。

もしバナゲームゲームは、亀田総合病院の医師が中心となり一般社団法人 iACP で作成している。原案は、アメリカの「GOWISH GAME」だが、それをただ翻訳したのではなく、日本人に合うような表現になっている。このゲームの前提は自分が予後半年と言われたら、そのときに何を優先するかというのを参加者に投げかける。自分の気持ちを言語化し、相手の気持ちを聞く中で避けてしまいがちな価値観のすり合わせがゲームの中で言語化されるので自然にできる。厚生労働省では人生会議（ACP）、人生の最終段階での意思決定支援が推奨されている。高齢者になっても最期まで医療を続けるのか、それが苦しみにつながっていないか、それを選択できるように、それを市民に考えてもらうために「もしバナゲーム」が最適と思われ、包括の方々と協力して展開していきたい。

- ・オンライン事例検討会について報告する。

包括主催の事例検討会で、高齢者にかかわるあらゆる職種の方が ZOOM で参加することができるというもの。今年度は8月、10月、1月で実施。1月は30名以上の参加者があり、包括支援センターの職員やケアマネージャーだけではなく、医師や薬局職員、地域医療コーディネーターである松宮氏にも

参加いただいた。来年度は5月、10月、2月に予定している。オンラインなのでみなさまにも参加していただきたい。

・その他

昨年度、研修部会・広報部会・情報システム部会の3部会体制だったものを、今年度から専門部会にまとめた。専門部会開催予定は当初2回を想定していたが、現時点で5回開催。今後來年度に向けた方向性やスケジュールを検討し、その結果を来年度の協議会で報告する。

(6)「認知症初期相談チームあびこ」の報告

非公開のため記載せず。

(7) その他

来年度の協議会の開催方法について。今年度は2回ともオンラインを採用しているが、来年度も同様とするか、対面にするか、皆様のご意見を伺いながら検討していく。

次回開催予定

日時：令和6年5月16日（木）午後6時30分から午後8時

会場：未定

司会：高齢者なんでも相談室